

世界経済フォーラムの年次総会(ダボス会議)

2012年2月4日
山本利久

今年も例年通りダボス会議が世界各国の政界、産業界、金融界、学会、メディアなどから多くの要人を集め(出席者数2600)、1月25日スイスの保養地ダボスで始まった(29日まで)。新興国の中でも経済的発展が目覚ましい中国が欧州金融危機、世界経済の先行き懸念などの問題が多発する中、その動向が注目されていたが、この時期が丁度中国の春節に当たるため要人の出席は殆ど見られなかった。

その為来年以降会議の開催を1週間早めて、1月23日～27日とする対策が講ぜられることになった。

ここでは数多くの講演会、シンポジウム、会合などからドイツのメディア報道の内、筆者の関心を呼んだものを要約してみた。読者の参考になれば幸いである。

○25日に行われたドイツのメルケル首相の講演から：独 FAZ-net(2012/1/26)の要約

スイスの保養地ダボスで29日まで危機からの脱出方法について議論が行われる。初日の会議の発端で、メルケル首相はドイツの過大な負担に対し警告を発した：ユーロ支援を2倍或いは3倍に増額する要請はナンセンス。

首相、ドイツの超過加重を警告；

ドイツ連邦首相メルケルはダボスの世界経済フォーラムの開会に当たり、困窮したユーロ圏諸国に対する追加支援の議論を先ず回避するよう求めた。”我々は履行できないことを約束することは出来ない”、と述べ、そして”市場の激しい攻撃が生じ、側面が無防備になった時、何が起きるかと問いかけた。それで欧州が救済されることはないだろう。野党内部と同様、首相の率いる連立内閣内でも勿論既に、恒久的な救済ファンドESMを拡大するため、可能性のある方法がいろいろ議論されている。

これまで5000億ユーロの貸付枠が計画され、ドイツはESMに凡そ220億ユーロを現金で振り替え、更に1670億ユーロの保証を引受けなければならない。月曜日にイタリア首相マリオ・モンティに続きIMF専務理事クリスチアン・ラガルドも貸付枠の増額を求める発言を行った。この要請は特に最大の出資国ドイツに向けられている。

ドイツのメルケル首相は債務危機克服の欧州支援基金に対する大規模な増額要請に重ねて反対した。

首相はこれまでも一貫してその考え方に反対している。彼女はドイツの超過加重に警告を発し、ユーロ支援を2倍、3倍に増やすことは無意味、とダボス会議で述べた：”私は常に、それがどれほど長く信頼されるものか自問する。いつまでもユーロ支援を増額し続ける代わりに、欧州は一層結束して共に成長しなければならない、とメルケル首相は目下検討中の新財政協定にいくらか目を配りながら要望した。”我々は欧州でこれまで以上に能力を発揮するようにならないといけない”、と首相はスイスの保養地で2600人の参加者を前に話した。

○投資家、ジョージ・ソロスの発言・他(出所；同上)

ドイツ主導のユーロ危機管理に向け、数多くの批判がダボスで噴出した。”ドイツは、デフレ効果を伴う債務スパイラルに通ずる政策を強要している、と今や幾分伝説的になった投資家ジョージ・ソロス氏は話した。“通貨同盟は自己破壊的な進路を取っている”との認識が、一体いつ認められるのか彼は自問する。ソロス氏はユーロ圏の危機に見舞われた諸国に達成不能な目標を据えているとして、ドイツを非難した。当今のユーロ危機管理が周辺国に反対運動を引き起している。イタリア、スペインの様な健全性が損なわれた諸国への支援のため、彼は欧州中央銀行と危機救済機関である EFSF と ESM に最後の避難所の貸し手となる役割を提言した。その保証をバックにこれら諸国は有利にリファイナンスを行う事が出来るようになる。

ダボス会議で特に批判的なのが銀行、金融商品の投資家の代表者たちである。20 世紀の資本主義は 21 世紀には最早適さない、と国際労働者連盟 ITUC の事務局長シャラン・パロウは或るパネル・ディスカッションで、こう述べた。1930 年代の危機前と同様大きな不均衡が今世界中に広がっている。何百万人もの人々が職を失い、資本主義は安定した職場の創造、富の公平な分配を逸している。

銀行は経済の鏡だ、とバンク・オブ・アメリカの頭取ブライアン・モニハンは自分の立場を弁護する。”食い止められるのだが、当然行き過ぎがある”。銀行業のやり方は、金融危機のあった 2008 年以降大きく変わってしまった。

IMF の前主席エコノミスト、ラグラム・ライヤンは大銀行の粉砕を将来の金融危機を防止するための合目的なものとは見ていない。過去にはシステミック・リスクに関連する大手の金融機関は、国家による倒産を免れるため大き過ぎ、高度に網目状に結合することで利益を受けた、とシカゴ大ビジネス・スクールのこの教授は語った。勿論銀行業を将来安定させるためには、より高い資本緩衝財とより良いリスクマネジメントのための対策が充分である必要があろう。

○銀行がユーロ緊急時対応を練る(出所：同上、ユルゲン・デュンシュのレポート)

世界の大銀行がユーロ圏の分断に備え準備に入る。緊急事態対応で彼等はその成り行きが度を越さないよう努めている。

世界の大銀行は最早ユーロ圏の分断を除外視しない。彼等は緊急時対応策で事の成り行きが度を越さないよう配慮している。これは世界経済フォーラムに於ける金融分野の代表者たちの内輪の話で明らかになったことだ。或る銀行の頭取は、2012 年はユーロ圏諸国にとり決断の年になる、と言った。その焦点に、混乱が続き 3 月 20 日に約 140 億ユーロを新規に調達しなければならないギリシャが先ず来る。或る欧州の銀行代表者は、大多数の金融機関はまだ具体的な計画を持ち合わせておらず、可及的速やかに”シナリオ”が具体化されるだろう、と説明した。一般に通貨同盟国の中で、ドイツ国債だけが本質的により安全な避難所と見られている。

ユーロ債務国の将来に付いて、世界経済フォーラムの開会日に既に数多くの会談がダボ

スで行われた。ジャーナリストの会談で、今や伝説的ともなった初期のヘッジ・ファンド・マネジャー、ジョージ・ソロス氏は次のように語った：“ユーロが EU の政治的結束を地中に埋め込むと言う真の危惧がある。” ドイツは、この間欧州での事態の展開を”主導”しているので、ここで主たる責任を担うことになる。ソロス氏は、自分が運用するヘッジ・ファンド”クオンタム”で、1992 年英国ポンドの投機売りで成果を挙げ、やがてポンドの切下げを強要したことで世界的に有名になった。今彼は”オープン・カンパニー”促進のための寄付を主宰している。それと並んで彼は今でも金融市場の問題で意見を述べている。

ダボスで彼はドイツとドイツ政府を一方向的に狙い撃ちした。ドイツはその歴史上インフレの脅威に対し非常に敏感に反応した、とこの間 81 歳になった彼は述べた。しかし今 EU では逆の恐れがある、つまり彼はデフレの下方スパイラルを信じている。

一連の危機を防止するため、ソロス氏は欧州の人々に厳格な財政規律と構造改革を薦めた。それと並んで、債務国は大いに努力しなければならないが、しかし同時に擁護されなければならない、とイタリア首相マリオ・モンティの尤もな要請に目を配りながら彼は語った。これに関連する一つの対策がドイツ政府並びにドイツ連銀がこれまで激しく拒絶しているユーロ債の発行である。ユーロ加盟国は 17 のそれぞれ独立した発行体として単一通貨ユーロ建てで取り扱われてきた、と金融界で言われた。このためユーロの失敗はもしかすると国債の数多くの発行中止にもなったであろう。この様な危険を銀行は速やかに検討しなければならなかった。ソロス氏は今回の会合で次の様に述べた：“経済的發展がお互いにバラバラに漂流する中、ユーロを通して加盟国の金利は接近した”。金融関係の代表者達は、会合で過度に厳しい調整プログラムが導入される際の社会的動揺の危険性に対して、何度も警告を発した。債務問題の大きさに鑑み、例えば 10 年前に於けるアルゼンチンの債務削減時に見られたような”ショック・セラピー”“は全く適切ではない。国家予算上の必要な調整に対しては 10 年から 15 年が考慮されなければならない、つまり広範囲な同意が必要だ。

金融業界の参加者達に対し、世間では欧州並びに米国に於ける債務問題の克服はいまだ多くの点が未達成である、と思っている。日本は法外な国家債務が今後とも国内投資家により負担されたため、殆ど注目されなかった。”人々は喜んでリスクを取る”とパネリストの一人が話した。”しかしこの間自信の無さがリスクを取ることを抑えている”。その結果は例えば多くの企業の遅々とした投資行動となって現れた。一人の参加者が、あらゆる努力にも拘わらず、多くの国で債務残高が更に拡大していると指摘した。その削減問題に関して、結局スピーチは行われていない。同時に多くの国の経済成長は不満足な状態が続いている；従って債務削減に向けこれまで以上に十分な出資が行われることはないだろう。

○英キャメロン首相：金融取引税は狂気(独 FAZ-net2012/1/26)

英国首相キャメロンはダボスの世界経済フォーラムで行った講演で独仏両政府の金融取

引税導入計画を厳しく批判した。首相は”これは実施すべきでない”、と語った。英キャメロン首相はドイツの先導したユーロ危機管理を攻撃した。そこかしこにいろいろ作っても最早充分ではない、我々は思いきりがよく、そして大胆でなければならない、そして臆病でぐずぐずしてはならない、とダボスの世界経済フォーラムでキャメロン首相は語った。彼は中でも独仏の金融取引税計画を論駁した。今これを考慮すれば、これは全く狂気の沙汰だ。この計画はこれ以上行われるべきではない”とキャメロン首相は述べた。同首相は英国の株式取引に課せられる銀行手数料と印紙税に言及した：これこそが他の国々も導入すべき対策だ。金融取引税は欧州委員会によると、導入されれば EU に 2000 億ユーロまでの経済活動の損失と 50 万人分の職を奪うことになる。

キャメロン首相は事前に発表された講演の文書によると、この他 EU と米国の FTA に賛同する発言を行った。これで同首相は、この様な協定が世界貿易に喫緊に必要な刺激を与えるとした独メルケル首相の発言に同調した。キャメロン首相は EU の同僚達にインド、カナダ、シンガポールと EU との懸案となっている FTA を”本年末までに”に調印の手続きに漕ぎ付けるよう要望した。暗礁に乗り上げている世界自由貿易に向けたドーハ・ラウンド会合は今や世界に拡大した経済危機を考慮すれば余りにも不活発過ぎる。昨年 12 月の EU 首脳会議で議論を呼んだ彼の封鎖行動に対して、キャメロン首相は協定全体の保証を求めた、そして”この保証を私は得られなかったとした。このため協定は出来ていない。しかし英国は EU の成果が豊であることを期待する：”我々は EU から離脱しない。EU 加盟は我々が自ら選んだものだ、そして我々は EU が上首尾である事を念願する。”

○中国は欧州に金融支援を行わない(出所：FAZ-net2012/1/29、レポーターはカステン・クノップ)

世界経済フォーラムで専門家達は中国の力強い海外投資の拡大を期待している。しかし彼等はまた強い政治的な拒絶反応も予想している。そして彼等は北京政府に一致して、善意の籠った推薦状を差し出す：それは国家高齢者生活保障への投資である。

中国が欧州の国家債務危機をその莫大な外貨準備を使って解消へ向け支援することはないだろう、しかし中国は世界の投資家として引き続き活発に行動するので、その際政治的拒絶反応が危惧される。それについて WTO 事務局長パスカル・ラミーは確信している。債務融資に関する欧州と中国の交渉の噂は全く空疎な饒舌であった、とダボスの世界経済フォーラムでラミー氏は語った。しかし中国の海外投資は今後とも上昇を続けるだろう：その時我々は、この 10 年間の国際貿易関係分野で起きたと同様な政治的騒乱を見ることになるだろう。

中国とその行動に関する政治的議論に鑑がみ、これはしかし中国が西洋に廉価な商品を氾濫させていることに対する非難として、尚煩わしい影響を及ぼすことになるだろう。”国際貿易にはルールがあるが、それは形式のある金融市場では通用しない、とラミー氏

は述べた。そのため、中国は自ら世界におけるその取引をより望ましい方向で地固めする戦略を熟慮することが緊急に求められている—西洋社会に於ける政治的拒絶反応を避けるためにも。”中国は如何にその歴史を伝えるか熟慮しなければならない。

中国のデモグラフィック問題・他

膨大な中国の外貨準備は、米エール大学学長リチャード・ラヴィンによれば、やがて中国の負担に耐え得る社会保障・老齢年金制度の構築を通じて有意義に削減させる必要がある。”問題の根源まで行かなければならない、それは中国の個人消費であり、老齢年金である、とラヴィン氏はダボスの世界経済フォーラムで述べた。中国の社会保障はこれまで非常に未熟な状態に置かれている：就業者の僅か半数に小額の年金受給権がある、とラヴィン氏は更に続けて語った。

専ら米ドルに投資されている3兆ドル強の中国の外貨準備の内、1兆ドルを中国が自国の社会保障制度に用立てるとしたら、これにより預金者の一段と多くの金が消費に回ることになるので中国国内経済の一層大きな推進力となろう、とラヴィン氏は述べた。中国の人口の3分の1が2050年に年金生活者となる。この問題を中国は現在の年金制度下ではコントロールできなくなる、とラヴィン氏は指摘した。同時に彼は、中国はその通貨をこれまで考えてきたより遥かに早く一層自由な為替制度に移行すると断言した。”これまで世界はこの様な移行を2020年までと想定しているが、私はもっと前に既に2015年にはそこまで行くと考えている、とラヴィンは語った。その後何が起きるかは明白ではない。中国の通貨が一般に憶測されているほど強く切り上がらないことは絶対に起こりそうだ。同じくラミー氏の言葉によれば、中国通貨が過大評価されている事は世界では全く議論の余地がない。しかしそれがどれ程高く評価されているかの問題に対しては、解釈が大きく分かれた。

持ち株会社ホニー・キャピタルの社長、John Zhao(趙)氏は中国の海外投資に関する偏見をフェアでないと感じている。例えばGeelyによる自動車メーカーVolvoの買収或いはLenovoによるIBMPC部門の買収の様な成功例がそれを実証した。そうした非難にも拘わらず、中国は貴重な地下資源或いは技術を時価で購入すべく、海外の経済的機能不全を利用する。その真の狙いはより良いコミュニケーションである。

○希望の担い手：社会起業家がダボスに集う(独国際放送事業体ドイチェ・ヴェレ 2012/1/26 レポーター；M. Kasper-Claridge)

経営トップ、国家首脳達が目下ダボスで行動を開始しようとしている。社会起業家を標榜した人々もまた世界経済フォーラムに招待されている。

彼はボゴタからチューリッヒまで9000キロ以上を飛び、そこから数時間掛け列車に乗り換え冬景色のダボスにやってきた。彼の名はFelipe Vegara,コロンビア人で、昨年ラテンアメリカの”社会起業家”として目立つ存在になった。有名になると共にシュワップ基金から今年の世界経済フォーラムへの招待状が届いた。この技術者にとりこれは一度だけのチャンスである。今彼はここで決定権を持つ人々に会う事が出来る：企業のトップそ

して政府代表者達だ。”若い人たちに投資することは非常に重要である”と彼は言った。そしてダボスで彼はラムニと名前の付いた自分の組織のために募集をするつもりでいる。ラムニは若者に教育貸付資金を出す。これは彼等にさもなければ得られないチャンスを開くことになる。なぜならば多くの国で、金銭的に恵まれた親達の支援なしに勉学を金銭的に支えることは若者たちにとって困難であるからだ。

制度に問題が

“資本主義が危機に瀕している”、と Vegara 氏は強調する。”貧富の大きな格差が克服されなければならない、そしてそれが最もよく出来るのが教育である。彼等は全く小さなグループ、社会起業家達である。しかし彼等は常に多くの人々に聞き入れてもらっていて、この世界経済フォーラムでも同様である。彼等はリーダーシップや尚影響の残る経済問題の討論に参加し、億万長者や首脳達と一緒にテーブルにつく。

世界経済フォーラムの創始者で社長でもあるクラウス・シュワップ氏はそのシュワップ財団と共に社会企業を支援している。シュワップ夫人により経営されるこの財団は唯一無比のネットワークを構築した。社会起業家達は互いに緊密に交流し、他の人の経験から学び、生産力のある企業モデルを開発している。監査役会にはその他の人々に交じりノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏*もいる。彼は今年も再びダボスにやって来て、社会起業家達と共にその最初の晩を過ごした。

*筆者注：バングラデシュ出身、グラミン(Grameen)銀行前総裁。 マイクロ・ファイナンス/クレジットの生みの親。2006年銀行と共同でノーベル平和賞を受賞。バングラデッシュ中銀により2011年3月に解任された。

人の模範

既にそれだけでこの晩はスー・リドルストンにとって十分な成果があった。ユヌスは彼女にとって模範的社会起業家である。彼は貧困と闘っている、と彼女は言う：“このことが重要”。所得格差の拡大がこの英国女性の心配を広げている。”我々はこの経済を倫理的、社会的観点が目されるよう変えなければならない”、と彼女は強調し、そして彼女自身が運営する会社がこの様な原則に従う事に関しては一切の疑いを持たせない。彼女の”バイオ・リージョナル・ディヴェロプメント・グループはエコロジーのあらゆる質問に助言する。彼女のプロジェクトはまたロンドン・オリンピックでも実施される。

未来のビジネス

社会起業家精神はリドルストンにとって、また企業家として振る舞う事を意味する：我々はそれを再投資するため利益を挙げなければならない。それが未来のビジネスである、と彼女は説明する。持続性がそこでは最高の命題である。浪費と投棄精神に対し、彼女は明確な No を突き付ける。少しばかり羨ましそうに彼女はドイツを見詰める：ドイツ人は英国人より遥かに環境意識が高い。アングロ・サクソンの発明した資本主義を彼女はこれに対し誤った方向にあると見ている。

30名の社会起業家達がダボスにやってきた。そこで彼等は”別様の経済”を宣伝する。こ

ここにチュニジアからの Essma Ben Hamidia もいる。2010年彼女は社会起業家として彼女の設立した”Inda Inter Araba”で有名になった。彼女はマイクロ・クレジットを供与する。”我々の顧客の70%は家庭の主婦。彼女達は原則特に国内では銀行に近づく術がない、しかし彼女等は小さなビジネスでしばしば家族を養っている”、と彼女は説明する。Essma Ben Hamidia は特にチュニジアの多くの失業した若者達を心配している。我々は100万人の失業中の若者を抱えている、これが社会問題になっている、と彼女は説明する。ここでもマイクロ・ファイナンスが役立つ、何故ならば若者達を何か有意義にさせるもの、例えば起業することが出来るようにする。”その可能性がここにはある“、と彼女は前途有望に語る。

起業家精神 2.0

彼女はアリアンナ・ハフフィングトンさんが社会起業家達のテーブルに突然現れた時にはしかし驚いた。大変影響力のあるジャーナリストで人気のオンライン新聞”Huffington Post”のこの創設者は世界経済フォーラムで独自の社会企業に関するオンライン版を立ち上げる。それがコメント、刷り込み印刷、写真、ビデオを載せる。それで社会企業家がWeb21に登場することになる。

筆者注記:2.0とはweb2.0の様にレガシーシステムに対する新しい動向を意味するもの。ここでは社会起業家達の非伝統的企業行動のあり方を示す。

○独財務相ショーブル、救済基金の拡大に反対(FAZ-net2012/1/29、レポーターC.Knop & J. Dunsch)

意見対立が続く：独財務相ヴォルフガング・ショーブルはダボスの世界経済フォーラムで欧州救済機構の増資に再度反対を表明した—これでフランスの同僚に反対したことになる。”根本問題が解決されない限り、如何なる防火壁も機能しないだろう、とショーベル氏は述べた。これに対し仏財務相フランソワ・バロンは：防火壁が高くなればなるほど、ESMが煩わされる危険は小さくなる、と話した。

アメリカ人がヨーリッパ人を教える

バロン氏は米財務長官テモシー・ガイトナーから救援を受けた。彼はダボスのシンポジウムで、IMFは補完的手段だけを用意出来ると言う考えを支持した。同じことが新興国にも当てはまる。まづヨーリッパ人が忙しい思いをさせられることになる。ガイトナー氏は”貴方がたは先ず自分たちで自分達の家事(財政*)を立て直さなければならない”と言葉にした。(*筆者注)

ギリシャ救済の増強策に関する議論に付いて、ショーブル財務相は、ギリシャは約束をするだけでなく、実行しなければならない、と述べた。人は誤った励みを与えてはならない、誤った励みのためにユーロ債発行に尽力してはならない：”人は他人の金のリスクで膨れ上がると、それは誰も逆らえない誘惑となる。”ショーブル財務相は、目下検討中の新財政協定の導入でユーロ圏に一層の安定性を齎すことが出来ると信じている。この協定は完了するまで交渉が続けられる。目前に迫ったブラッセルでの首脳会議がそれを

決議した時、”我々は逸早くそれを実施し、そして願わくば迅速に資本増強を行えるようになりたい。”

財政が安定すれば信用を勝ち得る

EU 通貨委員会委員のオリ・レーンはバロン氏と共に救済機構の強化に賛成し、積極的に意見を述べた。将来長きにわたる救済機構 **ESM** のため **5000** 億ユーロの貸出枠が計画されており、約 **2500** 億ユーロは現在尚一時的な基金である **EFSF** にある。”問題は：我々は両者を合同させることが出来るか？新任のスペイン経済相ルイス・デギンドスは再度ショーブル財務相の政策を支持、そして財政統合と構造改革を弁護した。スペインで高い財政赤字に差し支えが出ただけで、信用は失われてしまう。結局これは信用問題に行きつくこととなる。

このボールをショーベル氏は喜んで取り上げた：それがドイツの財政が再び一層安定し、ドイツ国民も再度国家財政の安定性への信頼を一段と高めることになるからである。

(了)

後書き：

ダボス会議は 1971 年スイスの経済学者クラウス・シュワップによりジュネーブで設立された非営利財団(シュワップ財団)により毎年開催される国際会議。当時筆者はドイツのフランクフルトに駐在していた。設立に当たり弊社にもドクター・シュワップからスポンサーへの勧誘状が届いたことを覚えている。

1 社当たりの年会費が約 **250** 万円～**300** 万円だったように思う。個人的には大変興味が湧いたが、会社は結局参加しなかった。その後年を追ってその存在が世界的に認識され、会議は隆盛となり日本からの参加企業、出席者も急増した。当時ではとても想像も出来なかった飛躍ぶりである。

報道によると現在、一般会員企業は年会費として **42,500** スイスフラン、年次総会参加費 **18,000** スイスフランを出している。